

毎日の授業や子どもとの接し方に悩む若い先生たち。
こんな小さなきっかけから子どもが変わります。

手間をかける

京都女子大学教授 よしなが 吉永 こうし 幸司

1 あの子は手間がかかる？

「教科書とノートを出しましょう。」
「帰る用意をします。」

と、授業の始まりや、生活の節々で指示を出します。その都度、少しずつ行動が遅れる子が、教室には必ずいます。いわゆる、手間がかかる子です。

そういう子は、急いでいるときに限って、遅れたりしますから、担任としてはたまりません。

本来は、動作や行動が遅い子を、手際よく行動させたり、見通しをもって動作ができるようにすることが大事なことは分かっているのですが、「あの子は手間がかかる子」として見てしまいます。

日常の忙しさに追われて「早くしましょう。」と指示をすることで済ませてしまいうことが多いのです。その結果、いつまでもたつても手間がかかる子のままです。

2 よい授業は手間がかかっている

若いころのことです。授業のしかたをきめ細かく教えてもらい、研究授業をし

ました。先輩が事前に、同じ指導案で模範の授業をしていましたので、自分の学級でも先輩のようにできると思い込んでいました。しかし、

「今日の目標を言います。」
「考えを発表しましょう。」

と、指導案どおりに指示をし、発言を板書したのに、授業の結果は散々なものでした。指導案が立派だったらいよい授業ができると思い込んでいたのですから、先輩との違いに驚きました。

先輩との違いは、授業までの手間のかけかたであるということに気づくのに、時間はかかりませんでした。

先輩は日ごろから、発言のしかた、ノートの書き方を丁寧に指導していました。ですから、「書きましょう。」と指示を出せば、すぐに鉛筆が動く教室でした。

それだけでなく、先輩は、何が書いてあるか、子どもたちの感想をどこで生かすかということを考えながらノートを読み、授業で効果的に活用していたのです。「書きましょう。」「読みましょう。」という指示をして、考えた気持ちになってい

た自分の授業とは、日ごろの手間のかけ方や授業前の心づもりが違うことを感じたのでした。

ノートをしっかりと読む、板書の計画を立てる、授業の記録を残すなど、良い授業をするためには、時間がかかるものなのです。でも、若いころは、時間をかけるのは無駄のように思っていました。

3 「手間がかかる」と「手間をかける」

授業で大事なことの一つに、ノートの指導があります。

国語の授業で、書くことを大事にしていくと、考える力だけでなく、学習の内容を確実に理解する力が育ちます。書くことを大事にするうえで、一番適切な方法は、ノートの指導です。ノートを書くことは大事な学習活動ですから丁寧に指導してほしい、と若い先生にお伝えする機会がたびたびありますが、理屈は理解できても、実際の授業では手が回らないことが多いようです。

若い先生の研究授業を参観したときのことです。指導案には、授業の中ほどと

後半に、二回も「書く」活動が予定されていました。「自分の考えを書く」という内容でしたから、期待して参観しました。しかし、授業では話し合いが延々と続き、書く活動の時間はありませんでした。

指導案と違った進め方でしたので理由を聞いたところ、

「書かせるとできる子とできない子の個人差が出てしまうのです。」

「書かせると時間がかかるし、その時間をもったいないので省きました。」

という返事でした。書く活動を授業に取り入れるのには時間がかかり、能率的でないというのが本音だったようです。

「手間がかかる」から避けたのです。

授業でよく見かけるのは、「わかりましたね。」と念を押し、「はい。」とわずくことで理解できていると評価する様子です。一見、なめらかに授業が進んでいるように見えますが、書くことに時間をかけることを敬遠したということでしょう。

ノート指導は、「手間がかかる」のが当然です。しかし、「手間をかける」ことで子どもの力が伸びるのですから、おろそかにはできません。

4 「手間がかかる子」には手間をかけて育てる

よい授業をするには、手間をかけることが大切です。「書くことは時間がかかる。」と嘆いていた若い先生が、気持ちを入れ替えてノート指導に取り組みしました。

文章を書き写す活動では、口頭で「教科書を写しなさい。」と指示することをやめて手本を作り、それを全員に配ることから始めました。手本どおりに写せば丁寧に仕上がるという仕組みです。

手本を作るという手間のかけかたが、書く活動を促し、丁寧にノートが作れる子を増やし、その後、書くことが授業に位置づくようになったそうです。

「手間がかかる子」も同じです。口頭で指示をするだけでなく、あらかじめ、手間がかかることを予測して、行動の順序や手順を教えたり、個別指導を繰り返すのです。行動の規範を丁寧に教えるという、いわゆる「手間をかけて育てる」ことが大事だと思います。